

第一部

漢字の力は学力の基本

漢字は難しくくない

第1章 文章力は全ての学力の基礎

1. 言葉は漢字で学べ

●……“国語”の力は成功の鍵

私は、今から四十数年前、次のことを知り、大いに我が意を強くしました。

「国語の力が豊かなことと、成功との間には、驚くほどの関連がある……あらゆる分野において」という前書きで、「言葉の不思議な力」という文章が、一九六一年の『リーダーズ・ダイジェスト』の七月号に掲載されました。

アメリカの科学者、ジョンソン・オコナー博士が、人間工学研究所で、

あらゆる職業から選んだ三五万人以上の人を対象にテストした結果、多くの言葉の意味を正確に知っているということが、他のどんな特性よりも、成功の原因である、ということを実証したということです。

博士は、中学生・高校生・大学生・工場勤務者から、大会社幹部 監督級にまでテストを行って、地位の上下と収入が国語の力と比例しており、国語の力は学校の成績にも比例している、と言っています。

人は言葉で物事を考えます。ですから、理解する言葉の数が多ければ多いほど、その人の思考の幅は広く、理解する言葉の深さが深ければ深いほど、思考の精密度も高いわけです。言葉を正確に、豊かに使う人があらゆる方面で成功しているのは、当たり前のことだと言えるのです。

コラム 部首

主

燭台しよくたいにあかりのついている象形。家の中心に置かれるので“中心”の意味。キリスト教では中心の意味で、キリストを指して使う。部首としては、“中心に向かつて集まる”“集中する”の意味に多く使われる。

【柱】 “家の中心となる木”の意味で“はしら”。大黒柱、支柱。“ささえ”の意味にも使われる。

【注】 川の水が中心である海に向かつて“そそぐ”。この主は“集中”の意味に使われる。

●……「動物」は「どうぶつ」に優る

普通、一年生には、動物という言葉をも、「どうぶつ」というひらがなで教えます。ところが私は、一年生に、「動物」という漢字で教えました。すると、子供たちは、「先生『動物』って、『動く物』って読めるね」と言うのです。私は、「ああ、そうだよ。チューリップやたんぽぽやさくらの木が生き物だったこと、よく知っているね。でも、草や木は、ひとところに立つたままで、動くことが出来ないだろう。生き物には、動ける物と、動けない物とがあるので、動ける物を、『動く物』と書いて、『動物』ということにしたんだよ」と、話しました。すると、子供たちは、驚きの目を見張って聞いていましたが、

「先生、じゃあ、とんぼもちょうちよも動物なの！」と尋ねました。

「ああ、そうだよ」

するとほかの子も尋ねました。

「先生、金魚も？」と。

水の中に住むものは、「さがな」ではあっても、「動物」ではないと、つい今まではそう思っていたに違いないからです。

「ああ、そうだよ。水の中を動きまわるからね」

「先生、ありは動物園にいないけど、やっぱりあれも動物だね」

「先生、人間もやっぱり動物じゃあないの」

どうとう、こんな質問まで出てきました。

動物という言葉は、普通、三、四年生になっても、その正しい概念を理解できないものです。しかし、漢字で学習する私の一年生は、立派に正しい概念を理解することが出来たのです。

【住】 人が集中すること、それは人が都会に集まりすむことを表している。

コラム 部首

戔

戔は“ほこ”の象形字。ほこには、“矛”“干”などの象形字もあり、“干戈”で戦争の意味にも使う。戔は、ほこを交えた形だから“戦う”“きずつけあう”のが本義。部首としては、“きずつけそこなえはなくなる”

……「時間」と「時刻」は違う

「集合時間は、八時半ですよ。間違えないようにね」などと、先生でさえ平気でこう言っています。しかし、時間とは「時刻と時刻との間」という意味の言葉で、時刻と時間とは明らかに違った意味の言葉です。学校では、くどいほど時刻と時間との使い分けを指導するのですが、その努力にもかかわらずこれを混同してしまっています。これはなぜでしょうか。

それは、「じかん」「じこく」というかな表現で教えているからです。これでは、「じかん」も「じこく」も同じように見えて、一、二年生の子供には、とてもこの区別は付けにくいのです。

しかし、私の指導する一年生は、「時間」「時刻」という漢字でこの言葉を学習しますから、ちゃんと意味や使い方の違いを知っていて、正しくこれを使い分けます。

このように、漢字は、言葉を裏から支えています。この、裏から支えている漢字がよく理解できると、表である言葉の持つ意味は、はっきりとてきます。その実例はいくつでも挙げる事が出来ます。

……英語の綴りは発音通りではない

ここで、英語でも、言葉の正しい意味を文字が支えていることを、お話したいと思います。

o(オー)ne(エヌ)、+wo(ウ)二(ニ)……の「onne」という綴りはoneです。この三つの文字の発音を連ねますと、「ouni」となります。この「ouni」というのは、十六世紀の頃の発音です。(現在の英語の綴りはこの頃制定されました。)「ouni」が「oun」になり、さらに「wunn」になり現在の「mwan」になりました。

ことから「わずか」の意味に使う。

【浅】 水がわずかということでも「あさい」とを表している。今では水に限らず、「学問が浅い」なども使う。

【銭】 わずかなお金の単位(一円の百分の一)に使われる。

【残】 わずかな骨(歹は骨の一部を表した形)ということでも、「食へ残り」の意味を表したものを。

では、こんなに変わったのに、なぜ表音文字を使っている英語が、昔の綴りを変えないで使っているのでしょうか。

それは、「o, n, e」という三字の組み合わせが、四世紀もの長い間に渡って意味を表す表意文字のような効果を持つようになったからです。フランスの言語学者ソシユールは、これを「表音文字の表意化」と呼んでいます。つまり、発音を表す表音文字が、漢字と同じように意味も表すという効果を持つようになったということです。

「alone(ひとりで)」「only(ただ)」「one(on)」は、ワン、ツーの「one」と同じ意味で、しかも、発音は十六世紀の頃の音に近いものを今もなお保っています。ところが、「one」の発音が「wʌn」になったからと言って「won」と綴りを変えたら、「win(勝つ)」の過去を示す言葉の「won」と間違えやすくなってしまいます。そればかりではありません。「done」や「only」の意味のつながりが切れ、それらの持つ意味をはっきりと掴むことが難しくなってしまう。それを恐れるから、「one」という綴りを変えないのです。

このように、英語でも、文字が言葉の意味を支えているのです。文字を知っているのと知らないのでは、同じ言葉でも、その深さが、味わいが、ぐんと違ってくるのです。

2. 漢字の力は学力の基本

昔、私の長男が、慶應の普通部に在学していた頃、父母会で、こんなお話を聞きました。

「全校生徒に漢字テストを行ったが、その結果、漢字テストの成績の良い生徒ほど、他の学科の成績も良く、漢字テストの悪い生徒ほど、他の

コラム 部首

圣

本字は巫で、(Ⅲ)織機はたに張られた“たていと”の象徴。“たてにまっすぐに通す”意味の部首。

【経】 圣の本義“たて糸”を表した字。縦

糸は糸を代えることもつなぐことも出来ない、基本になる大切な糸で、「経典」「経文」のように“大切な書物”という意味。また「経営」のように“計画”し“おさめる”という意味にも使う。

学科の成績も悪い」というのです。

中学生にも、そういうことがあるのを知り、私は大変面白くこのお話をうかがいました。

●……文章力が必要な算数の文章題

私も、小学校の教育に携っている時、漢字がしっかりと読み書き出来る子供はほとんど例外なく、どんな学科でもよい成績を収めていることに気が付いていました。でも、最初のうちは、漢字がよく出来るほどの頭のよい子なら、なんだってよく出来るのが当たり前だ、くらいに考えていました。しかし、多くの先生方と話合い、自分の教員生活も長くなってきました。すると、漢字力が読書力の鍵になっていくことが判ってきました。

例えば、算数で、文章題の解けない子供をよく調べてみますと、決して

て式が立てられないのではなく、まして計算が出来ないのではないのです。文章がよく読めないために、問いの意味が解らないのです。問いの意味が解らないので、式を立てることが出来ないのです。

この傾向は、社会科や理科になりますと、一層強くなります。問題を読んでやると成績がぐんと良くなり、独りでやらせると、成績がまるつきり悪くなってしまいます。これは、明らかに、質問の意味がよく読取れない、つまり、読書力の弱さを物語っていると思います。

●……文章を読む力は学力の基本

私は、お母さん方からよくこんな相談を受けました。

「先生、どうもうちの子は、そそっかしいので困っているんですよ。この間のテスト、あんまり成績が悪いので、私が読んでやって、やらせてみま

【径】 まっすぐな道
が本義。イは行、つまりで道の象形。

【軽】 “径(小道)を走らすことのできる車”という意味で“径車”が本義。“軽快な車”から、単に“軽快”。

すと、ちゃんと、みんな出来るんですよ。本当に先生、こういうそそっかしい子供は、どう指導したらいいんでしょうか」

たいていのお母さんが、先生に相談しないまでも、一度や二度、きつとお考えになったことがあると思います。でも、これは、世のお母さん方が考えるように、その子供だけが、とりわけそそっかしいのではありません。お母さんが問題を読んでやれば、問題を解く力はあるので、ちゃんと出来るのです。学校で出来ないのは、だれも読むではくれなかったので、問いの意味が解らなくて出来なかったのです。

文章を読む力は、このように、どんな学習にも欠くことの出来ない、基本的なものなのです。

私は、今までに何回も、一年生、二年生という小さな子供を受持つてきて、漢字がしっかりと読み書き出来る子供は、どんな学科でも必ずよく出来るということを経験してきました。このことは、どの先生も認めているところです。

でも、よく考えてみれば、これは当り前のことです。漢字の読み書きがよく出来ないようでは、他のどんな学科でも、学習をすらすらやることが出来ず、時間ばかりかかって能率が上らないわけです。

もともと、表裏一体である言葉と文字とをわざわざ切り離して、言葉を漢字と関係なく学習させています。これでは、言葉を正しく深く理解することが出来ません。これでは、本当の国語の力は付きません。国語の力のないものには、どんな学問も、その扉を開いてくれません。人間の智慧も授けてはもらえません。私たちは、子供たちのために、まず何よりも強い漢字力を付けてやらなければならぬのです。

第2章 漢字の持つ力、すばらしさ

1. 読書能力と国語力

●……科学・技術の進歩も基本は国語力

日本がまだ力をもたなかった頃、水平思考という言葉で有名なケンブリッジ大学の教授デボノ博士が、「イギリスではせいぜい数千部も売れれば上出来と思われる学術専門書が、日本では十万余部以上も売れている。この読書エネルギーは、やがて日本を世界一にするだろう」と予言しました。

確かに、明治時代の発展も、第二次大戦後の興隆も、共にこのエネルギーによるものだといえることが出来るでしょう。

日本人くらい書物や新聞雑誌をよく読む民族はないでしょう。混み合う通勤電車の中でも、多くの人何かを読んでいます。たとえばそれがスポーツ新聞であっても、とにかく、階層の区別なく活字を読んでいます。これは諸外国には見られない、日本人の日常の姿勢の一つと言えるでしょう。

この特異性が、日本人の知識を向上させ、技術を向上させ、短時日の間に先進国の文明に追付き、追越させた、最大の理由だと言えますでしょう。

以前、朝日新聞に、「科学技術教育と国語教育の重要性」という題の社説が載ったことがあります。それは次のような要旨のものでした。

近頃、科学技術教育の必要性が叫ばれているが、それにつけても、その根底にある“国語”の教育の重要性を忘れてはならない。極度に正確な表現と理解とを要求する科学を学ぶには、細かい知識や技術そのも

コラム 部首

召

殿様が「刀を持って」と言って小姓を“よびつける”ことで、刀と口の会意形声字。

【招】 召が口で呼んでよびつけるのに対して、手でおいでおいでして“まねく”こと。召が目下をよびつけるのに対して、招はお客を

まねくこと。

【昭】 “日の光を招き入れる”ことで、“明るい”“照り輝く”こと。

【照】 “灬が火の燃える様を表す部首なので、日や火が明るく“でらす”意味。

●●●●●
 のよりも、学問研究のための基礎としての国語をしっかりと身に付けることが肝要である。

科学を修めるためには、まず、先人の著述や記録を正確に理解する“読解力”を必要とする。

次に自ら観察し、実験した所を、論理的に精密に記録する“表現力”を欠くことが出来ない。つまり、科学や技術に限らず、あらゆる学問が進歩する根底には、それぞれの国の“国語”の力というものがあるのだ。……と。

この考え方は大切です。良い花を咲かせたい人は、花そのものには手を掛けないで、まず土に肥料を施し、水を与えることに専念します。科学教育と言い、技術教育と言うのも、いわば、豊かな土壌である“国語教育”の上に咲く花です。科学教育だ、理科教育だと騒ぐ前に、まず国語教育をしっかりとやらなければなりません。

●……● 日本人の読書エネルギーの源泉

ところで、デボノ博士を感心させた「日本人の読書エネルギー」は、どこから生れるのでしょうか。それは、よく言われるように、日本人の勤勉さからでしょうか。

勤勉さもさることながら、私は、日本人の持つ高い読書能力、国語力から生れる、と考えています。

およそ、世の中に、読書能力さえあれば、読書ほど、永続的に楽しくて有益なものはありません。ただ、読書能力が低いと、読んでも十分に理解できないので、読書が楽しめないのです。

私はむしろ、読書能力の-highいことが日本人の読書エネルギーを生み出しているのであって、日本人が勤勉だと言われるのは、その結果だと思っ

コラム 部首

監

監の古い形は監。臣は臣で、目を大きく見開いた形。“見張る”のが本義で、普通は“見張る人”つまり“家来”。ㇿは人の変形。血は血に水がいっぱい入っていることを示したもの。

だから監は血に満たした水に人が顔をうつし、それを見つめることを表した字。つまり“水かがみ”が本義。上から見おろさなければならぬから、“見おろす”部下を見張る”という意味にも。

……偉大な発明……漢字かな混り文

では、日本人はなぜ外国人に比べて読書能力が高いのでしょうか。

その理由は、当然、日本固有のものの中になければなりません。つまり、わが国固有の表現法“漢字かな混り文”にある、と思われれます。日本語は、表意文字（実は、表語文字と言うべきもの）である漢字で書き表すのが良い言葉と、表音文字であるかなで書き表すのが良い言葉とから出来ています。漢字かな混り文は、そういう日本語のために発明された、世界に類のない表現法で、これが読書能力を非常に高めているのです。

漢字は、言葉を直接表していますので、一目でそれが何を意味しているかを知ることが出来ます。ローマ字やかな文字は、表音という手段によつて間接に言葉を表すので、文字の目的である“表意性”の点では機能

的にどうしても漢字に劣ります。

しかし、表意性に優れた漢字でも、漢文や現在の中国語のように、漢字ばかり並びますと、決して読みやすくありません。つまり、漢字ばかりの文章でも、また、かなばかりの文章でも読みにくいのです。これにひきかえ、漢字とかななどが適当に混り合った“漢字かな混り文”は、双方の特長を生かして読書をしやすくしています。そして、それが日本人の読書能力を高めているのです。

かなから教えていませんか

【覧】 見おろす意味
の監の省略した形“𦉳”
と見との会意形声字
で、“上から下をつく
づく”と見る”こと。

2. “見てすぐ判る”漢字の偉力

●……漢字は一目で意味が判る

名神高速道路が出来た時、道路標示に使う最も良い文字を選ぶために実験したところ、ローマ字で書いた場合、判読に数秒かかり、かなで書かれたものは数分の一秒、そして、漢字の場合は、数十分の一秒で読める、ということが判りました。

国語に「ハナ」という言葉があります。「突き出たところ」というような意味の言葉ですが、草本の花も、顔の鼻も、同じく「ハナ」です。ところで、鼻から出るものを「洩」と書きます。

「ハナ」と書いたのでは、それが何を指すのかはつきりとしませんが、これを花・鼻・洩と書き分けると、一目ですぐに意味が判ります。それに、

「花」という字には、なんとなく美しい雰囲気がありますが、「洩」には、汚らしい雰囲気があります。見るからに胸が悪くなるような字で、ズルズルという音さえ聞えてきそうな気がします。

このように、漢字というものは、それぞれに鮮やかな印象を秘めていて、一目見ただけで正しく早く、その文字が意味するものを呼び起してくれます。思想の伝達という機能を果す上で、漢字ほど優れた働きを持った文字は、他にありません。

言葉は、録音しておかなければ口から出た途端に消えてしまい、しかも、ラジオやテレビのような手段によらない限り、その伝わる範囲もごく近くに限られます。ところが、文字になりますと、時間的にも空間的にも、その効果がずっと大きくなります。

文字というのは、そういう機能を待ち、言葉の短所を補うものとして生れたものですが、もう一つ注意すべきことは、文字が、言葉では精

コラム 同音異義語

みる

「見る」「看る」「視る」「観る」

【見】 目と人との合

字。“人における目の働き”。目を開いていれば自然と物が見えてくる、つまり“見える”という意味を表すために使える唯一の漢字。「儿」は人が坐っている姿を表したもので、“人”と同じ。

密に区別し、表現できない点まで表現できる、ということですが。

先の例の「花」「鼻」「漢」もそうですが、「見る」「観る」という表記もそうです。これらは、英語の see, look, inspect, observe に当る意味を表しています。つまり、「見る」は「何気なくみる」ことであり、「観る」とあれば、「みようとしてみる」ことであり、「視る」とあれば、手落ちはないかと「注意してみる」こと、そして「観る」とあれば、「細かい点にまで心を配ってみる」ことであるのが判ります。

ですから、「川をみる」という表記では、どういう態度で川をみるのか判りませんが、「川を見る」「川を見る」「川を視る」「川を観る」と書けば、その川をどのようにみているのかがはっきりと判ります。

このように、言葉では不可能な点まで表現できるところに、漢字の、文字としての大きな特長があるのです。これが漢語の表記となりますと、一層その特長がはっきりしてきます。

●……漢字の学習は頭脳を明晰にする

私は、六年生の教科書を見ていて、「こう水」という表記を目にした時、一瞬とまどいました。それは「洪水」のことだったのですが、私はその「こう水」を一瞬、「こうすい」と読んだのです。「こうすい」では、「香水」か「鉱水」になってしまいます。つまり、小学校では、これらの漢字を教えないうで、「こう水」という表記で教えているのですから、実際の「洪水」「香水」「硬水」「鉱水」という言葉を理解させることは出来ないのではないかと思えます。

「こう水」という表記がこれこれの四つの言葉を表すということは、説明することは出来ませんが、それでは子供にはとても理解できないでしょう。ところが、この「こう」を洪・香・硬・鉱という漢字にすると、それぞれ明瞭な意味を持っていて、決して紛れることはありません。漢字で学ぶ

【看】 目の上に手をかざした形。“見よう”と思つて見る”こと。よつて、「看える」という使い方はない。

【視】 神と見との合字。神を祭祀する時の見方を表した字で“注意して見る”こと。

ことは、かなで学ぶよりも、ずっと易しく能率的なのです。ですから、言葉
葉を漢字で学んだ子供たちは、「かなばかりの本は読みにくくて意味が
判りにくい」と言っています。

つまり、漢字を学ぶことは、概念を明確にすることであり、物の考え
方をはっきりさせることになるのです。だから、「漢字の学習は頭脳を明
晰にする」と言うことが出来ます。

●……漢字は書けなくてもよい

以前、朝日新聞は「石井方式を考える」という社説を掲げ、「石井方
式はよく“漢字を教える教育”のように言われているが、そうではない。

“漢字で教える教育”なのである」と解説しましたが、今でもなかなかこ
のように理解してくれる人は多くありません。

例え漢字が書けるようにならなくても、漢字で学習することにより、
言葉の持つ意味が正しく理解できれば、十分とは言えないまでも、それ
で結構だ、と私は考えています。ですから、漢字を学ぶことを目的とす
る漢字教育ではないのです。

もちろん、出来るだけ漢字が書けるのに越したことはないし、実際に
漢字で学習していれば、いつとはなしに、漢字を覚えてしまうものです。

平安朝の昔から、かなは女手、漢字は男手と呼ばれて、漢字は難しい
ものだと考えられてきました。たしかに字数が多いばかりでなく、字形
が複雑なので、いかにも難しそうに見えます。

しかし、漢字は、文字であると同時に、語ワードでもあるのです。例えば

山・川・花・月などの文字は、英語の mountain, river, flower, moon という語に
当たっています。英語の場合、アルファベットだけ覚えても文章を読むこと
は出来ません。一語一語、何千という語を学ばない限り、書物を読むこ

【観】 “熱心に見る”
“心をこめて見る”とい
う意味。「観察」、「観
光」「ながめ」という意
味も。「外觀」、「壯
観」。

とは出来ないのです。

とすれば、漢字は字数が多く、字形が複雑なのは当然のことなのです。「整」という一字など、英語に直せば、「To put (things) in order」という言葉になります。つまり、「束」が「things」で、「文」が「put」の意味に当り、「正」が「order」の意味を表しているのです。これだけの意味を、ただ一字で表しているのですから、その字形が複雑になるのは当然です。

整という字を構造的に言うならば、木に輪をかけて「束」をこしらえ、両端がきちんと揃うように、棒を手にして叩く(文はひで、手に棒を持つ意味、牧、教、攻の文は皆この意味)ことで「正」しくなり、「整」うのです。

3. 漢字——この易しさと面白さ

●……子供の目の輝き

一年生で、一年かかっても、かなが一字も覚えられない子供がいました。ところが、この子供に、漢字を教えてみたところ、急にその目が輝き、どんどん覚えたのです。

“雲”と“雪”を間違いなく読み分け、“鳥”と“烏”も間違いなく読み分けました。“門”という字など、ただ一度教えたただけなのに、覚えてしまいました。

これには、私も驚きました。しかし、学習心理学によりますと、記憶するために第一に必要なことは“関心”です。関心がなければ、どんなに学習させても、また学習しているように見えても、実質的には決して学

かなから教えていませんか

習にはなっていないのです。

智能が低ければ低いほど、抽象能力が劣るものです。従って、抽象的な文字であるかなには興味が持てず、心がかなに向かないので、「くも」「ゆき」といくら教えたつもりでも、具体的な、あの「空に浮かぶ雲」「降る雪」と結び着かない。ですから覚えられないはずがないのです。

ところが、“雲”や“雪”だと、よく知っている物であり、言葉ですから、“関心”が持てます。“関心”が持てるから、それが心に残って、読めるようになるのです。

つまり、かなの覚えられない子供も、漢字ならほとんど覚える。このことを私たちは実験によって確かめています。

●……漢字の絵本は喜んで手にする

漢字には、以上のような性質があるので、幼児に喜ばれるのです。つまり、難しいものでは全くありません。努力なし、負担なしで覚ええられるのです。

ですから、絵本に、かなばかりを使うことは、わざわざ難しくし、面白くないようにしているのです。もし漢字が多く使われていたら、子供たちがどんなに喜んで本を手にするか判りません

私が、このことを、絵本を刊行している有名な会社の人に話したところ、「おっしゃることはもっともだと思います。ただ、それでは世の中のお母さんたちから文句が出るでしょう。買ってもらえません。だから、それは出来ません」ということでした。

幼児開発協会の理事長をされていた故井深大ソニー会長が「母親が

コラム 部首

藿(雀)

艹(草)と隹(鳥)と
 口な(たくさんの口)との会意形声字。草むらで鳥がカンカンとしきりに鳴くのが本義。部首の意味はしきりに“熱心に”心をこめて。

【勸】 “熱心にすす

める”。力は人名で“つとむ”と読むように、つとめる(努力)”こと。

考えねばならぬこと」という講演の中で「今日の教育というものは、わざわざ、子供にとって解らなくなる、あるいは難しくなる年齢まで待って、それから一所懸命やらせている。子供が受付ける時期を過ぎてから、一所懸命詰込もうとして、親も学校も社会も苦勞しているのではなからうか」とおっしゃっていました。この指摘は、漢字教育だけを取ってみても、正にその通りなのです。

幼児期に学ばせれば、全く自然に、覚えようという苦勞もなく習得し、そのために楽しく読書できるようになるものを、記憶力の衰えた時を待つて学ばせているのです。この誤りからも、まず世のお母さん方が脱出していただきたい。それは子供の将来のために、想像以上に大事なことです。

●……漢字があると理解しやすい

漢字教育をしている幼稚園のことです。

節分の日には、黒板に“節分”という字を書いて、先生が話しました。

「節分とは、季節の分かれめという意味の言葉です。冬の季節が今日で終わります。寒い風の吹く、いやな冬、行ってしまえ、という気持ちで、“鬼は外”と言って豆を撒くのです」すると、園児の一人が「じゃあ、“福は内”って言うのは“春よ来い”ってことだね」と言ったのです。

その次の日は、“立春”という字を書いて「きょうは“立春”の日です」と言って、その話をしたところ、こんどはまた別の園児が「こよみの上では春だけれど、まだ寒いね」と言って、先生を驚かしたそうです。

言葉は、言葉として説明されただけでは理解しにくく、記憶にも留りにくいものです。ところが、漢字と共に説明されると、理解しやすく、

また、記憶にも留りやすくなります。

“節分”が“季節の分かれめ”であり、“立春”が“春の立つ日”であることは、言葉だけの説明では決して理解され記憶されるものではありません。

ところが、漢字と共に説明されますと、幼児でもちゃんと理解し、言葉と漢字と共に記憶し、それを正しく生活の上に使えるようにまでするのです。

●……応用問題を解く鍵

石井式漢字教育を行っている小学校では、一年生でも算数の文章題（応用問題）が実によく出来ます。クラスの大抵が満点です。文章題をやるのが楽しくて仕方がないのです。

普通の学校で、文章題の成績が悪いのは、問題を解く力がないためではなくて、かなばかりの文章なので、読むのに苦勞して、読んでも意味がよく判らないので、式を立てることが出来ないのです。

それは文章題の点数0の子に、その問題の文章を読んでからやらせてみますと、すぐ判ります。たいてい、すらすらと式を立てて、正しく計算してちゃんと答を出します。

文章というものは、全体をすらすらと読み通さないと、その意味が判らないものです。ですから、一字一字、かなを拾い読みしていたのでは、何をどうしろと言われていいのか、判らないのです。つまり、問題を解く力はあるても、式が立てられないのです。

ところが、目で見ただけですすぐ判る漢字を多く使った文章だと、すらすらと終りまで読み通せますから、すべてうまくいきます。漢字教育を採入れたクラスのほとんどの子供が満点を取れるのはそのためです。

コラム 部首

雨

空から垂れ下がった雲間から水滴の落ちる形を象った象形字。音は宇（ソラ）。

【雪】 ヨは手を表す。手の上に載る雨。雨は手に載らないが雪なら載る。

【露】 雨ではないが雨粒のように路上に置かれる“つゆ”。

【霧】 務は無の意味で、有るようで無く、無いようで有る“きり”を表した。

文章題は嫌われがちですが、その文章がすらすらと読めて意味がよく判れば、単なる計算問題よりずっと面白くて好かれるはずです。

このことは、算数の文章題に限ったことではありません。理科の学習でも、社会科の学習でも、かなばかりで書かれているために読んでも意味が判らないとか、反対に、漢字が多い参考書だと、漢字が読めないのその参考書を十分に活用できないとか、そういうことのために出来ない場合が非常に多いのです。

この意味でも、早い時期に漢学力を養っておくと、漢字を多く使った、本格的な書物を早くから読むことが出来て有利です。幼稚な書き方の本よりも、本格的な書物の方が、読む力さえあるならば、面白く読める。面白く読めれば、読めない子との間に格段の差が生じ、その差が拡大していくことも当然でしょう。

大学院で宇宙工学を学んだ私の長男は、石井式漢字教育の実験第

一号で、幼稚園のころ、すでに小学校四年生くらいの本だったら、楽に読めるようになっていました。

そのため、小学校の低学年のうちから、解らないことは自分で百科事典を取出して調べるようになり、特に興味を持っていた理科方面の知識は、学校の先生を驚かせていました。

彼は「自分が数学や理科が得意になったのは、父の漢字教育のお蔭だ」と語っています。漢字教育が国語力を育て、その国語力が宇宙工学の世界の面白さを私の長男に与えてくれたのです。

先に引用した「科学や技術に限らず、あらゆる学問が進歩する根底には、国語の力があるのだ」という朝日新聞の社説は、単なる理屈ではなくて、事実の裏付けを持った主張なのです。

コラム 豆知識

漢字の語源

【漢】漢字は水に係がないと思われのに、なぜ“氵”なのか。漢字は今から三千四百年ほど昔、中国に殷という王朝があって、そこで発明され、使われたと言われている。それが秦の時代に何度か改定され、今の

楷書に近い隷書という字体が制定された。そして今の楷書が制定されたのが、次の漢帝国の時代であった。「漢の文字」なので漢字と呼ばれている。「漢」の名称は漢帝国を興した高皇帝が、その前に漢中（揚子江の北を並行して流れる大河“漢”又は

第3章 漢字は難しくくない

1. “漢字は覚えにくい”と言われる理由

●……必要は記憶の母

「必要は発明の母」という諺があります。必要が発明を生む原動力であることは確かですが、必要は記憶の母であることも、また、間違いない事実だと思います。ひどく忘れっぽい人でも、忘れては大変だということ大切なことだけは、決して忘れないものだからです。

文化勲章を受けた故岡潔博士のお話ですが、博士は、学生時代、試験のための記憶が、非常に上手だったと言います。一度読んだだけで覚えられ、試験が済むまでは覚えていたが、試験が済むと、決して、途端に

すっかり忘れてしまう、ということでした。

これなどは、本当に、必要が生んだ記憶の代表的なものだと思いますが、これほどはつきりした経験はなくても、これに近い経験は、だれでもきつとあるに違いありません。

実はこれは、心理学者アールによって、実験され、発表されていることです。つまり、記憶する時の心構えというものが、記憶や忘却に大きな影響を持っているということを、アールは実験によって証明しているのです。

だから、大切なことをよく忘れるという人は、その大切なことを、実はそれほど大切なことだとは思っていないから忘れる、ということになります。つまり、忘れっぽい人というのは、物事に無関心な人、ということになります。

“漢水”と呼ばれる河の中流にある都市)を支配する王で、漢王又は漢中王と呼ばれていたことによる。つまり「漢」は河の名前であるから“シ”が使われているのだ。

【字】 家の形を表し、家の意味の「宀」と、子の姿を表し、子の意味の「子(子)」とを組合せた字。初めは“家に子が生れる”という意味の字であった。昔は、文字を単に「文」と言っていた。それがこれらを組合せて新しい文字を作るようになる。

……記憶の原理

記憶の原理に、「関心」とか、「興味」とかいう言葉がよく挙げられています。記憶術という名の本には、必ずと言って良いほど、よく使われる言葉です。

物覚えが悪いと言われる人でも、自分が関心を持つこと、興味を持つことには、なかなかの記憶力を発揮するものです。どうも社会科が苦手だという人は、きっと社会的な事件に無関心な人です。つまり、関心や興味のあることはよく覚えられ、関心も興味もないことはよく覚えられない、ということになりますが、これをさらに掘り下げて考えてみますと、先に述べた「記憶する時の心構え」ということに帰着すると思います。

ある研究によれば、関心や興味のあることがらについては、自然に「記憶体制」が整えられ、記憶には、意志によって行われるものと、意志に関係なく行われるものがある、長期の記憶は、後者によって行われるものだというのです。だから、「覚えよう」という意志を働かせて行った記憶は、短期の記憶に属するものであるが、そのうち（たいていは一時間以内）に起る）、頭の中の「記憶体制」がこれを整理して、あるものは長期の記憶に移したり、あるものはこれを完全に忘れ去る、という仕事を行っているというのです。

つまり、私たちの頭の中で、私たちの意志を離れた「記憶体制」が、「これは覚えてやれ」「これは忘れてやれ」「これは一生だ」「これは一週間だ」と、選分けている、というのです。

二人の男女が結婚し
新しい生命が誕生す
るのに似ているので、二
字の組合せで作ったも
のを「字」と言うよう
になった。

コラム 部首

及

ク(入)と又(ヌ)の
合字。クは人の象形、
又は手の象形。前を
行く人をうしろから
つかまえ、とどめよう
とする形の字。“追
およぶ”のが本義で、
“手がとどく”ことから
“ひきよせる”の意味。

●……忘れるのも大切

この心理学説によれば、覚えるのが仕事であるのと同じ程度に、忘れることも一つの仕事である、ということになります。

つまり、忘れるということは、「排出作用」という一つの立派な仕事なのです。ですから、「習った漢字を忘れた」ということは、「頭を働かせて、頭の中にある漢字を捨てた」ということになるのです。

「そんな馬鹿な。わざわざ頭を使って、漢字を忘れるものか」きつとそうお思いでしょう。でも、どうもこれが本当のようです。

生れつき、胃袋の小さい人があります。この人は、ちょっと食べ過ぎると、食べたものを吐き出してしまいます。これは、その人の意志で行われるものではありませんが、その人の生命を守ろうとする「排出作用」に違いありません。

脳には数十億の細胞があるので、記憶作用は、まず無限だと言っても差し支えがありません。だから頭の中が覚えることで一杯になるという心配はありませんが、覚えたりも、思い出せない、ということがあります。

ですから、脳の記憶貯蔵庫に収める前に、一時置き場にしばらく置き、これを選分ける仕事が大切になるわけです。この一時置き場で選分ける仕事は覚えることがあまりに多く、また乱雑に入ってくると、整理し切れません。受け付けを断ったり、緊急処置として、一旦受け付けたものでも排出することになります。いつまでも整理できないでいますと脳が異常状態に陥るので、それを保護するために、「排出(忘却)作用」があるのだと思われれます。

私が、前の項で、「記憶体制」という言葉を使いましたが、それは、一時置き場に置いて整理する働きを指したものです。

【吸】 “口で物をひ

きよせる”という意味で、“すう”ことを表した字。例えば、物が口にひきよせられることから、口と及とで、“すう”ことを表した。

【級】 “品分けされた系”が本義。今では広く“品分け”“順序だて”の意味。

コラム 部首

言

口と辛(けん)の形声字。“ものいう”こと。

“言葉”の部首。

【評】 “公平に言う”

意味の平と言との会意形声字。他人の良し悪しを私情をさしはさまずに言うのが「批評」。

●……漢字は難しくない

戦後、漢字の力が弱くなったということがよく言われます。と同時に、漢字が難しいということもよく言われます。しかし、私は、これは当り前のことだと思っています。なぜかと言いますと、戦後、漢字を軽んずる傾向が生れ、「漢字なんか、覚えなくてもいいんだ」というような考えが、まず一部の教師の間に起り、それが生徒に影響して、漢字を勉強する場に、漢字なんてどうでもよいというような雰囲気漂っているからです。

漢字を学ぶ者が、「漢字なんてどうでもよい」「漢字を知らなくたって、たいしたことはない」というような考えでいたのでは、記憶体制が成立しません。こんな状態で学習したのでは、漢字がどんなに易しくても、記憶できるはずがありません。記憶貯蔵庫に収められないで、排出(忘却)されてしまうのです。

2. “漢字は難しい”へ反論すると

●……漢字は世界で一番字画が少ない

漢字は、字数が、かなやローマ字に比べると、非常に多いので、だれでも大変だと思っているようです。しかし、漢字は、文字であると同時に、語でもあるのです。例えば、「山・川・花・月……」という漢字は、英語の「mountain, river, flower, moon」という語に当ります。ですから、漢字の字数の多いのは当り前のことです。

英語の場合、アルファベットだけ覚えてもなんにもなりません。一つ一

【語】 “吾が人に言う”。「かたる」こと、また「かたる言葉」。

【計】 数の意味の十と言との会意字。“数をかぞえる”こと。

【誠】 “成功する言葉”という意味の成と言との会意形声字。虚偽の言葉は一時的には成功するかに見えても決していつまでも続くものではない。“真心から出る言葉”こそ、成功に導く言葉であるという意味から出来た字。

つ、言葉の綴りを学ばなければなりません。ですから、同じ文字という名が付くからといって、まったく働きの違う漢字とローマ字とを、そのまま文字として比べるのは、誤りです。

漢字の場合、アルファベットに当るものは、「字画」です。「ノ・一・一・一」が、アルファベットです。とすれば、漢字は、世界で一番、字画が少ない、と言ったことが出来ます。つまり、

(語) (文字)

mountain ↓ m.o.u.n.t.a.i.n

=

山 ↓ 山・山・山

river ↓ r.i.v.e.r

=

川 ↓ 川・川・川

右のような関係になり、漢字は決して難しくなく、ということが言えます。

……漢字が複雑に見えるわけ

また漢字には、字形が複雑だ、という非難があります。しかし、これも、漢字が語であるということを考えますと、この非難は間違いであることが判ります。例えば、

東 ↓ 木・日

=

east ↓ e.a.s.t

果 ↓ 木・田(田)

=

【記】 糸の意味の己

と言との会意形声字。言葉糸のようによく続けて書きしるすこと。

コラム 部首

戠

音と戈(さ)で地上に立てた目じるしにする木の枝の象形で“しるし”の意味の部首)との会意形声字。“境界をはっきりと示すために設けられた、国境であることを明確にした碑の類”を言う。部首としては、

fluit ↓ f.r.u.i.t

このように比べてみますと、漢字の字形が複雑であるというのは、やはり、漢字を語として考えないところから起った非難だということが、よく判ります。

漢字は、どんなに複雑に見えるものでも、簡単な部品が組合せられて、出来上っています。ただそれが、英語の場合には、同じ方向に次々と並べられていきますが、漢字は、重ねたり、上下左右に並べたりしますので、複雑に見えるのです。例えば、東は、木に日が重なっていて、太陽の出る方角を表していますし、果は、木の上に実(田川[㊦])を載せて、「木になる実」を表しています。

もつと複雑な例を挙げますと、整という字は、束(木と口)と攴(ノと又)と正(一と止)の三つの部品が、左右上下の組合せになっており、その三つは、それぞれさらに二つに分けることが出来ます。

このように漢字は、複雑なように見えても、分解すると、簡単な、ありふれた形の集りに過ぎないのです。

●……難しく思うな

私は小学生の頃、徒競走に出て、一度も入賞したことはありません。一年生の時から、小学校を卒業するまで、毎年、出場しているのですが、五、六人ぐらいで走って、三等までに入ることが、どうしても出来ませんでした。しかし、それは、今にして思えば、私の実力がそうさせたのではなくて、「自分はだめなんだ。自分なんかに入賞できるはずはないのだ」という気持があって、人と張合って駆ける、力を出し切って駆けることをしなかったためだと思っています。

なぜかと言いますと、中学に入ると、最初の運動会で、どうしたこと

“物事を明瞭に区別する”こと。

【職】 “耳で、物事をはつきりと聞き分ける”ことが本義。これは(民の声を聞くこと)で、役人として最も大切な“仕事”なので、「役職」(しごと)というように使われるようになった。

【識】 “言葉”のもつ意味をはつきりとさせる”が本義。

【織】 “しるしのつけられた糸”という意味の字で“布をおる”こと。

か一着になり、それが機会で自信が付くと、たちまちクラス代表の選手になり、しまいには、学校代表の選手にまでなったのですから……。

つまり、私が、小学生の時、一度も入賞できなかったのは、私の足が本当に遅いためではなくて、「自分は遅いのだ」という気持が、私の足を実際に遅くさせていた、ということになるのです。

遅いと思う気持が、足を遅くするように、難しいと思う気持は、易しいことをも、難しいものに思込ませるものです。

今まで考えてきましたように、漢字には、難しいと思われやすい点がいくつかあります。「漢字は覚えにくい」「漢字は字数が多すぎる」「漢字は字形が複雑だ」これらの見方は、先に述べたように、すべて皮相の見方であり、間違っています。よほど深く考えないと、迷わされてしまいます。そして、「漢字は難しい」と信じ込んでしまいます。

さあ、そうになったら大変です。どんなに易しい漢字だって、難しく思えてきます。

3 “かなは易しい”というのは迷信だ

●……挨拶は感情の交流

朝、おうむを見たら、「オハヨウ」と言いました。犬は、「ワンワン」といって尾を振って近寄りました。

さて、あなたは、このどちらに、朝の挨拶を感じますか。おうむの「オハヨウ」にですか。それとも、犬の「ワンワン」にですか。

おうむの「オハヨウ」に、朝の挨拶を感じる人もあるでしょう。それは、「オハヨウ」というおうむの声から、聞く人が、人間同士の挨拶を感じ取

コラム 部首

方

耕作に使う“すき”の象形字。今は“方法”（読み方、書き方の方）という使い方と“四方”（四つの方角）という使い方と“四角”という使い方が多く、本義には全く使われな

【防】 卩と方との会

意形声字。卩は崖のしるしの部首なので、“四方を崖で囲む”という意味。つまり外敵から守るための土手を周囲に築いて“ふせぐ”こと。

るためです。しかし、その声を出したおうむ自身は、その声に、なんの意味も感情も託しておりません。耳に聞いた限りでは、私たちの交す挨拶と同じですが、中身は全く違ってきます。

これにひきかえて、私たちは、ふつう、犬の「ワンワン」に、ずっと挨拶を感じるはずで。犬と私たちとの間には、「ワンワン」という声を仲立ちにして、立派に感情の交流が行われるからです。

●……一年生が論語を読む

「とも、えんぼうよりきたる。またたのしからずや」

この文を一年生に読ませたら、おそらく、私たちが読むのと同じように、立派に声に出して読むでしょう。

ところで、あなたは、これを、「文を読んだ」と言いますか。私は、そう

は言いません。なぜかと言いますと、それはおうむの、「オハヨウ」と同じように、言葉の働きがないからです。これに反して、「友、遠方より来る。また楽しからずや」

という文ですと、石井学級の一年生は、「とも、エンホウヨリクル。またタノシカラズヤ」と、読むでしょう。「遠方」という言葉は習いせんから、正しい読み方は出来ません。また、「来る」も「きたる」とは読めません。しかし、「友だちが、遠くの方から来る」という前半の文章の意味は、間違なく読取ることが出来るのです。「エンホウ」「クル」……読み方こそ間違っています、意味だけは正しく読取っているのです。

前者が、おうむの「オハヨウ」なら、後者は、犬の「ワンワン」に当ります。私は後者に価値を認めます。言葉が生きて、立派にその役目を果しているからです。

【訪】 “あっちへ行ったり、こっちへ行ったりしてたずねる(言)”こと。

【放】 方と文との合字。文は手に棒とか鞭を持った形なので、“棒をふるって人を追いはらう”こと。

コラム 部首

畠

畠は畠[⊕]で、“りっぱな酒どっくり”の形を象った字。部首としては“りっぱな財産”の意味に使われることが多い。

……「読める」とは

読むとは、「意味を汲取る」ことにあります。例えば、声に出して読ませますと下手ですが、よく文意を理解できる子供がいる半面、いわゆる読み方はうまいが、いっこうに文意の読取れない子供がいます。私たちは、もちろん、後者よりも前者に価値を認めています。

しかし、外見だけでは、意味を読取っているかどうかは、判りません。そこで、止むなく、耳に聞いて判る声だけを手がかりにして、すらすら読めれば、「よく読めた」と考え、つかえつかえ読むと、「よく読めない」と考えるわけです。事實は、必ずしもそうではないのですが、そう考えるより仕方がないわけです。

ところが、人は、うっかりすると、目的の意味よりも、手段の声のほうを大事に考えるようになるのです。つまり、うまく声に出して言えれば、「うまく読めた」と、本当に考えてしまうのです。

論より証拠、かな書きの「源氏物語」や、漢字が一つも使われていない「土佐日記」は、決して易しくありません。しかし、その中の言葉を、漢字に改めさえすれば、もつとずっと判り易くなると思われる言葉がたくさんあります。

かなが易しいというのは、五十音を学べば、どんな文でも読める、と誤解しているからです。まったく浅はかな考えと言わざるを得ません。こういう人は、おそらく、ローマ字を学べば、英語やフランス語が、読めたり、書けたり出来る、と考えるのではないでしょうか。ローマ字がどんなによく読めて書けても、英語やフランス語が、読めたり、書けたり出来るようにはなりません。同じ“字”という名が付いていても、漢字とローマ字の働きは全く違っていることを、はっきりと認識しなければ

【富】 冨と家(宀)との合字。りっぱな酒器のあるような家は裕福であるところから“とみ”を表す。

【福】 冨と神(礻)との合字。“神様から授けられたとみ”という意味の字。目に見えない精神的な財産。

【副】 財産(冨)を二つに分(卩)けるといふ意味。卩は刀の変化した形で、部首としては“切る”こと。沢山ある財産を二つに分けて、片方は万一に備える“予備”“ひかえ”の意味。

ばいけません。

●……漢字で読取る言葉の意味

二年生の教科書に、「れっ車、はっ車、はくせん」という言葉が出てきます。ふつうの学校では、これをどう教えているでしょうか。

かな書きされたこれらの言葉は、教えなくても、声に出して読むことは出来るでしょう。しかし、意味は解りませんから、教えなければなりません。そこで、教えるわけですが、「れっ車」と「はっ車」では、字形も読み方も互いに似ていて、どちらがどうと区別することが大変に困難です。第一、意味を理解することが難しいし、覚えにくいので、「れっ車」を「はっ車」と間違えたり、「はっ車」を「れっ車」と間違えたりすることがあるほどです。

ところが、私の学級では、「列車、発車、白線」という形で習います。子供たちは、この字を見ると、

「列は、一列二列の列だな。並んでいる車のことかな。『れっしゅ』と読むのかな」というように、自分独りの力で、意味や読み方を考えます。だから、「れっしゅ」ではなく、「れっしゅ」と読むのだけ教えれば、それで済むのです。

「はくせん」では、読めても意味は解りません。そればかりか、それが、「白い線」であることは、教えても、なかなか解るものではありません。

ところが、「白線」では、子供たちは、「しろせん」と読んで、自分の力で、意味を知ります。そこで、私は、

「しろい線のことを『ハクセン』と言うんだ。白は、『ハク』とも言うんだよ」と教えますと、

「先生、よく解ったよ。運動会の紅白玉入れの『ハク』がそうでしょ」

コラム 部首

復

古い字形は蔓で、目
は、二つ重ねたような
形をした酒器の象
形。又は、止(足の裏
の象形)をさかさにし
たもの変形。復は復
の本字で、“同じ道を
重ねて行く”“目が“重
ねる”、又が“歩く”。
今では復は、目つまり
“重ねる”という意味。

【複】 “布を重ねて

作った着物(ネ)”。夏
の着物「ひとえ」は複
衣に対して単衣と書
く。今では単をシング
ル、複をダブルの意味
に使うことがある。ま
た衣類に関係なく広
く“重なり合う”“こみ
あう”としても使われ
る。

と言うのです。

このように、漢字で指導していきますと、教えなくても、意味を正しく知ることが出来、その上、言葉を早く覚えて、早く使えるようになります。そして、何よりも価値のあることは、子供たちが、「自分で考える」という態度を養ってくれることだ、と私は思っています。

私が、受持っていた学級には、一年生の一学期を終っても、一文字のひらがなも読めるようにならなかった子供がいます。こういう子供は、私の十年間の小学校生活でも、ただ一人です。

この子は、ひらがな書きされた自分の名前を見ますと、

「これはぼくの名前だ」

と言います。しかし、その中のかなのどれかを取出して、

「この字はなんという字？」

と尋ねますと、もうだめです。

「解らない、解らない」

の一点ばりです（この子は、入学前に一年間、幼稚園教育を受けており、自分の名前だけは解るようになっていたのです）。

ところが、漢字のほうは、三十二字も覚えてしまったのです。かなは一文字も覚えられなかったけれども、漢字は、指導要領に記載されている一年間の目標を、一学期で覚えてしまったのです。

私は決して、漢字だけを特別に指導することはしません。文章に即して、かなと同じ程度に指導するだけです。

●……簡単な字形のものほど難しい

ところで、この子供の覚えた漢字の中には、数字は、「一」と「二」があるだけで、「三」以上の数字はありません。しかも、この「一」、「二」が読め

【腹】 “肉体のなかで、最も多くの器官が重なり合っているところ。” “はら”には腸が重なりあっているから。

たのは、一学期を終える直前だったのです。入学二か月後の六月十日のテストでは、「雨・雲・雪」や、「車・花・畑」などの複雑な漢字は読めるのに、「一、二」が、どうしても読めなかったのです。

私は、子供に字を書かせ始めるのに、この「一、二、三」から始め、たびたび、繰返し練習させたものです。それは、この字の書き方は、一番基本的なものを備えているからです。「左から右へ」筆を動かし、「上から下へ」筆が及んでいきます。

ある時期には、毎日、この子の手を取って、

「さあ、一、二、三という字を書こうね。そら、イーチ、ニー、サン。棒が三本あるから、これは『サン』という字だよ。解ったね」

とこういう練習を何回繰返したことでしよう。ところが、一学期が経つても、ついにこの、「三」が読めずに終わってしまったのです。

こういう子供の例は、私も初めてですが、「七」や「八」の覚えにくいこ

とは、もう十年も前からよく経験しています。「七」を「ハチ」、「八」を「シチ」、または「グ」と読む子供は、今までにも実に多くいました。これは、これらの数字が抽象的なものであり、字形と何の結び着きもないからです。字形がどんなに簡単であっても、意味と結び着かなければ、記憶にならないわけです。

私は、「一、二」ほど易しい字は世の中になく、と今まで思っていました。けれども事實は、「車・花・畑」のような具体的な内容を持った字よりは難しかったのです。これが解ったのは、この子のお蔭だったと思います。

さらに、この難しい漢字よりも、かなのほうがまだまだ難しいことが解ったのも、この子のお蔭です。一学期を終えて、一つのかなも覚えられなかったという、この事実です。

これは、意外のようであり、よく考えてみれば、少しも意外なことではありません。かなは、どんな抽象的な漢字よりも、ずっと抽象的なも

のだからです。

4 漢字はこんなに易しい

●……複雑な字を一回で覚える

この子については、もっと驚かされたことがあります。一年の二学期の終りに、国語の教科書に、「大掃除」という言葉が出てきました。ちょうど十二月の暮れですから、この言葉が、よく使われていたわけです。「除」は、当用漢字音訓表にありませんので、「掃除」という使い方は、今では、小学校ではもちろん、中学でも学ばないのですが、社会的にはよく使われている字だと私は考えましたので、「大掃除」という漢字で、この言葉を

を教えました。

この時、「掃」の「帚」は「箒」ほうきで、だから、「掃」は箒を手にする、つまり、「はく」ことだと教えたのです。これは、「掃」という字を印象付けるために教えたのであって、もちろん、「箒」は当用漢字表にない字ですので、一年生に覚えてもらうつもりはまったくありませんでした。

ところが、三学期が始ったある日、ふと思いついて、私は、この「箒」という字を、黒板に書いて、

「この字の読める人」

と尋ねてみました。もちろん、ひとりも読めなくたって不思議はない、という気持でした。

ところが、多くの子供たちに交じって、あの子が元気よく手を挙げているではありませんか。私は、「おやっ」と思って、すぐにその子を指しました。すると立って、元気よく、

コラム 部首

牛

二本のつのを含む“う”の頭部を象った象形字。

【物】牛は家畜の中で最も大きく、庶民にとっては最も頼りになる財産なので“もの(万物)”の代表。

【犧】“りっぱ”の義と牛との会意形声字。神に「いけにえ」として捧げる牛。

「ホウキ」

と答えたのです。

これには、私はまったく驚いてしまいました。一学期かかって、一文字のかなも覚えられないというのに、「箒」などという、複雑な形をした字が、たった一回の指導で、どうして覚えられたのでしょうか。

●……**実体と字形の結びつき**

結局、これは次のように説明できると 思います。つまり、箒の実体は、この子もよく知っている品物です。そのよく知っている実体と、「箒」という字形とを結び着ければ、それで覚えられたということになるわけですが、この字形には、箒そのものを連想させる何ものかがあるに違いない……と。

この学習は、「ほ」という抽象された音声と、「ほ」という字形とを結び着ける学習に比べたら、ずっとずっと易しいわけです。この子のように、能力の劣った子供では、「ほ」というような、意味のない音声を頭の中に描くことは、実に難しい仕事なのです。その上、「ほ」という音声と、「ほ」という字形を結び着ける、なんの手がかりもないのです。それは、能力の勝れた子供でも、実に難しい仕事です。

いずれにしても、漢字には一年生の子供にとって、実に覚えやすい何かがあることだけは確かです。それは、どうしても、漢字が、一字で一つの意味を持っているということだと思えます。「牛・馬・羊……」、漢字は一字一字が、実体をもっていて、その字を、ちらっと見ただけで、すぐに実体が頭の中にきれいに描かれるからです。

「漢字は生きている」私はそう思っています。「はし」では、なんの意味もありません。しかし、「橋」「箸」となりますと、はっきりと、その実体

コラム 部首

馬

馬の全身を横から象った象形字。

【驚】 つつしむ意味の敬と馬との会意形声字。“馬が暴れないようにしっかりと手綱をおさえる”こと。馬はからだが大いのに似合わず驚きやすいので、

“おどろく”に使われる。

【騷】 蚤と馬の会意形声字。蚤のために馬が体を木にこすりつけたり、体をびくびく動かして“さわぐ”こと。“動く”“さわぐ”が本義。

が頭の中に浮んできます。

ところが、かな文字で書かれた「うし」「うま」の場合は、「うしのう」も「うまのう」も同じ字です。こういう文字では、小さな子供たちには、解りにくく、面白みがないのが当たり前です。

これに比べて、「牛」「馬」という字は、生き生きとしているではありませんか。字が、はつきりとした固有の顔を持っているので、子供たちの目には、とても印象的に写り、すぐに覚えられてしまうわけです。

コラム 部首

羊

二本のつゝ、長いひげなどの特長を象った象形字。家畜の中でも羊は最も優美で温和なため、「美」「善」を表す。

【義】 “我を美しく

する”という意味の羊と我の会意字。つまり立派な人間として必要な資質に対して与えた“徳目”のこと。音はギで、“よろしい”という意味の宜と同じ言葉